



エリカ

139 編は端書に 指揮者によって、ダビデの詩。賛歌。とあります。冒頭に 主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。(1)とあり、最後の6連にも 神よ、わたしを究め／わたしの心を知ってください(23)とあります。ダビデの神認識は、この言葉から、「神は わたしを知っておられる」という特性があると思います。これは預言者エリミヤが 万軍の主よ／人のほらわたと心を究め／正義をもって裁かれる主よ。(エレ11:20)と告白しているのと同様です。

一方、預言者イザヤは 主は、とこしえにいます神／地の果てに及ぶすべてのものの造り主。倦むことなく、疲れることなく／その英知は究めがたい。(イザヤ40:28)と語り、使徒パウロは だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。(ロマ11:33)と述べています。この二人は主知的と言えるでしょう。ダビデは無限、無窮の神の懐にいと信じる信仰告白です。

1連は、このダビデ自身の日常の行為や、意志、意図などの心の思いと、また、発する以前の言葉でさえ、すべて神は知っておられると歌います。前からも後ろからもわたしを囲み／御手をわたしの上に置いていてくださる。(5)とは、神の中に生きていけると言えるでしょう。

2 連は、詩人はどこに行けば あなたの霊から離れることができよう／御顔を避けることができよう(3)と反語的に神の遍在を賛美します。神に最も近く、高いところ 天、死者が横たわる、最も低い所 陰府、人が辿り着けない、最も遠い所 海のかなた でも、あなたはそこにもいまし／御手をもってわたしを導き／右の御手をもってわたしをとらえてくださる。(10)といます。三度目に記された 御手 を、祝福を示す 右の御手 と言い直して、無辺の神の中に生きていく喜びを歌います。

3 連は、不安と恐怖に慄く暗闇を思い、わたしは言う。「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す。」(11)と告白します。闇もあなたに比べれば闇とは言えない(12)は主が共におられるから、そこは闇ではないと言う意味でしょう。

4 連は、神の創造の神秘、完璧さを自らの肉体の神秘に思いを寄せながら、賛美します。御業がどんなに驚くべきものか／わたしの魂はよく知っている。秘められたところでわたしは造られ／深い地の底で織りなされた。あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。(14)と感嘆します。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている／まだその一日も造られないうちから。(16)と、自分の存在は神の計画、御心によると告白し、三度、わたしはなお、あなたの中にいる。(18)と、感謝します。

5 連は、詩人には敵がいて 流血を謀る者 や、さらに、偽りの信仰者、主を憎む者、主に立ち向かう者がいます。どうか、神よ、逆らう者を打ち滅ぼしてください(19)と祈ります。主の敵は詩人の敵でもありません。6 連は、神よ、わたしを究め／わたしの心を知ってください。わたしを試し、悩みを知ってください。(23)と、詩人の無垢な信仰と悩みを神に訴え、救いを求めています。

『讚美歌 21』は、関連讚美歌が 9 曲ありますが、アメリカ改革派教会の讚美歌(1987 年)から採用された 166「主は、わたしを究め」<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2013-01-16>を詩編歌として挙げています。ジユネーブ詩編歌は、古楽器オルガン(ふいごによる)とリコーダーの合奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=DHyW1sNBaHc&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=139>